



# 第11期 事業報告書

2003年8月1日から2004年7月31日まで

## CONTENTS

プロフィール	1
<b>光を役立てる、役立つ光をつくる——それがCCS。</b>	
財務ハイライト	2
トップインタビュー	3~6
<b>社長に聞く、社長が答える経営戦略</b>	
R&D	
●工業用LED照明事業	7~9
●農業用照明事業	10
連結財務諸表	11~12
個別財務諸表	13
会社概要	14

# 光を役立てる、役立つ光をつくる——それがCCS。

CCSは工業用照明をはじめとするLED照明の専門メーカー。  
急速に技術革新が進むLED素子。その光を独自のライティング技術で応用し  
FAによる生産現場の品質管理に欠かせない画像処理用照明を提供して  
トップシェアを確保しているほか、農業用照明や医療用照明など  
新規分野におけるLED照明の可能性を探索・開拓しています。  
より幅広い分野で多くの人々に貢献するために——  
CCSは独創の技術とノウハウで光をつくり、役立てます。

企業理念

光を科学し社会に貢献する

企業ビジョン

光の世界企業を目指す

## 工業用LED照明事業

### 浮かび上がらせる

生産現場では外形や傷、異物混入などを  
発見するために光を照射して浮かび上がらせる  
ライティング技術が必要です。  
最適な光の照射で品質管理の信頼性を支えます。

## 農業用照明分野

### 育てる

光は植物の生育に大きな影響を及ぼ  
します。精緻な光質制御により、育成  
研究をサポートし植物の工場生産化、  
農業の工業化を促します。

## 医療用照明分野

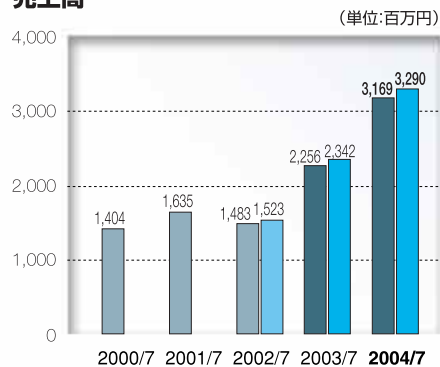
### 固める

歯科用レジン(樹脂)を素早く硬化させる  
ことにも光の照射は有効です。  
歯の疾患のスピーディで確かな治療に  
役立ちます。

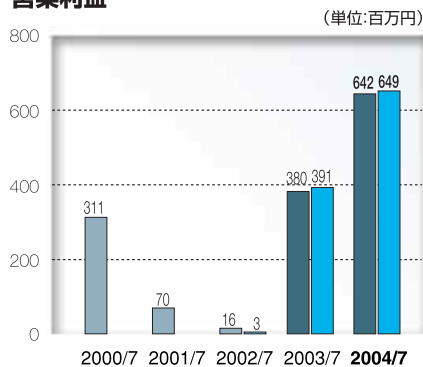
### 癒す

照明による光や熱が身体や  
精神に好影響を与えること  
があります。治療やリラクゼーション  
に光の力を最大限に活用します。

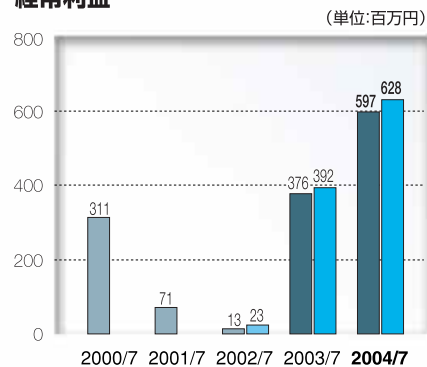
## 売上高



## 営業利益



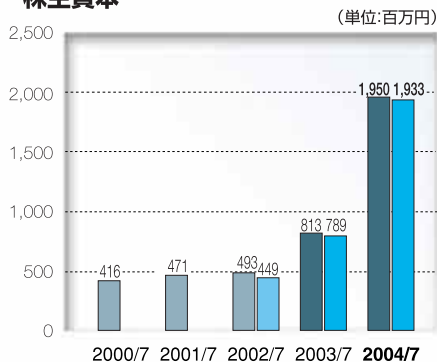
## 経常利益



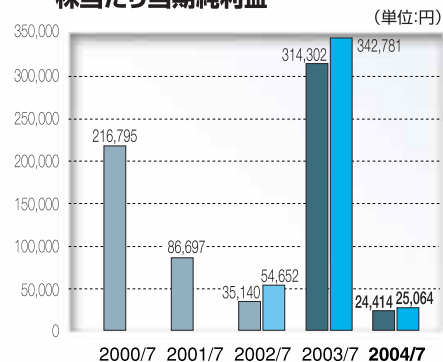
## 当期純利益



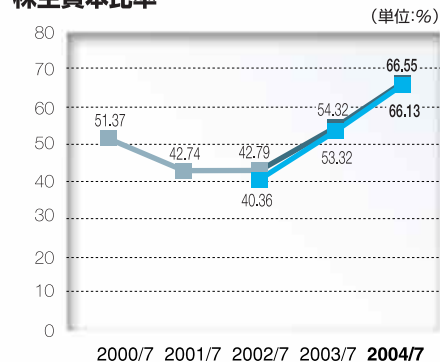
## 株主資本



## 一株当たり当期純利益



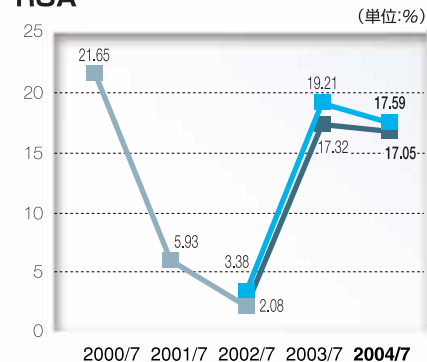
## 株主資本比率



## ROE



## ROA



※2002年度より連結決算を開始しました

## 社長に聞く、社長が答える経営戦略

会社設立から10年余りで株式上場を果たしたCCS。  
その急成長の要因と今後の戦略について  
社長自らが株主の皆さまに説明いたします。



おかげさまで2004年6月8日、  
ジャスダックに上場いたしました。

代表取締役社長  
米田 賢治

**?** 上場のねらいは？周囲の反響はどうでしたか？

**!** 上場は世界企業となるための一つの通過点です。

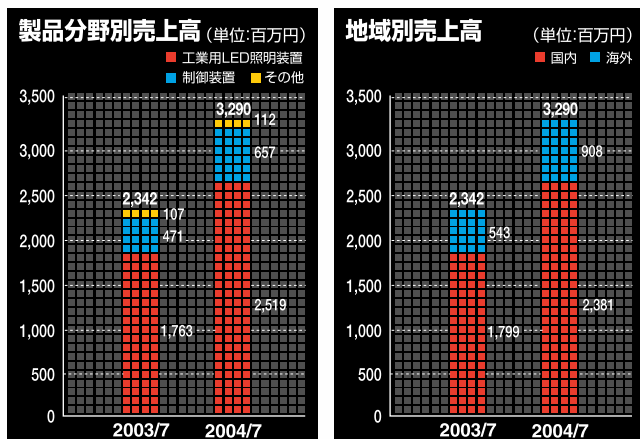
株式上場は当社の創業精神であるお客様への「愛と感謝」に基づくものです。私は、企業は社会の公器であるとの考えから、上場してパブリックカンパニーとなることを早くから望んできました。より多くの人のため、社会のために役立つには、会社の成長が必須。“光の世界企業”を目指す当社にとって、上場は一つの通過点に過ぎないわけです。知名度向上や資金調達などが主たるねらいではなく、それらはむしろ後からついてくるものだと考えています。

長くお取引いただいているお客様からは「この短期間でよくここまで成長した」との評価をいただきました。またお客様に限らず、機関投資家の方々にも期待をもって受けとめていただき、個人投資家の皆さんからもインターネットを通じて多くの声を頂戴しています。皆さんの期待に応えるためにも、さらに成長を期し、利益をあげていく会社にならねばと考えています。

**?** 2期連続増収・増益ですが、その要因は？

**!** ライティング技術による提案力が成長の理由です。

当連結会計年度の売上高は、3,290百万円（前期比40.4%増）、当期純利益は387百万円（前期比55.3%増）となりました。大幅な増収、増益となったのは、当社の主力事業である工業用LED照明の技術力、提案力が広く認知されてきたことが大きな要因でしょう。この分野には国内で競合会社が10社近くありますが、その中で当社



は約60%のシェアを獲得しています。それは当社が、ほかにはないライティング技術を有しているからです。対象物と検査目的に応じて、最適な照明を選定・提案できるノウハウを、私たちは“ライティング・ソリューション”と呼んでいます。

工業用LED照明という一般の方には馴染みが薄いでしょうが、工場の品質検査の精度を左右するものであり、これが適正でなければ、検査システムそのものが役に立たなくなります。その品質を守る肝心要の製品に世界No.1ブランドである当社のCCS照明が広く使用され、すでにデファクトスタンダードとなっていることが、当社の強みなのです。

**?** 国内ではトップシェアを獲得していますが、海外について今後の施策は？

**!** 各国の市場特性に合わせた販売活動を強化します。

当期における当社の海外シェアは約20%であり、これを約30%

まで拡大することが当面の課題です。そのため、各国の市場特性に合わせた製品提供と技術サポートを強化したいと考えています。

アメリカには1999年に現地法人を設立し、画像処理システムメーカーへ直接販売してきましたが、現地の主力マーケットである自動車関連業界を中心に、いっそうの拡販を図っていく方針です。また東南アジア・中国市場に対しては、ニーズの多いミドルエンドからローエンドの製品にも対応していく考えです。一方、ヨーロッパ市場に対しては現在、ドイツ、フランス、イギリス、イタリアの各国に1代理店制度を採っています。さらに2004年11月には、ベルギーに新しく現地法人を開設し、ヨーロッパにおける技術サポートを充実させる計画です。



### 2003年9月、上海駐在員事務所を開設

CCSは世界の工場として急成長を遂げた中国での情報収集拠点として、2003年9月に上海駐在員事務所を開設しました。

ここには工業用照明のテスト室を設置し、現地顧客へのコンサルティングサービスの拡充を図っています。今後は販売子会社への昇格も計画しており、アジアの中核拠点として地域のニーズに的確に応えます。



### 社長に聞く、社長が答える経営戦略

#### ？ 農業、医療分野をターゲットとした新規事業の進捗と手応えは？

#### ！ どちらの分野でも成果が生まれ、次なるアプローチを計画中です。

農業分野では、昨年製品化して大学で試験的に使用していただいた植物育成装置を、2004年9月21日から販売開始しました。食糧自給率の低下と残留農薬問題を背景に、今、日本では農業の工業化研究が進んでいます。しかし、すでに実用化されている蛍光灯や高圧ナトリウムランプを使った植物工場は、消費電力面で効率が悪く、省エネルギーで環境にやさしいLEDへの期待が高まっています。今回発売した植物育成装置を使ってさらに研究が進めば、LED

光源による植物工場の実用化に弾みがつくと考えます。

将来的には当社が工業用照明分野で10年間蓄えてきたLDE集光技術、放熱技術、制御技術を横展開して、レタスなどを育成する完全制御型植物工場を実現させたいと思います。

医療分野では歯科用レジン硬化LED照射装置および近赤外線を利用した治療装置の開発を進めています。歯科用レジン硬化LED照射装置は2004年内にも供給開始を予定しています。

#### ？ 今後の戦略と展望については？競争力はどのように確保していくのですか？

#### ！ LEDの進歩と相俟って競争力はむしろ増強されるでしょう。

工業用LED照明事業で培ったLEDのライティング技術とノウハウを新規分野へ展開していくことが最大の戦略です。LED素子自体がまだ新しいものであり、素子メーカーの開発競争により、年々急速に進歩しています。表示器以外のLED応用製品は少なく、当社が開拓

#### 植物育成装置を第3回「国際バイオEXPO2004」に出展



2004年5月19日～21日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された第3回「国際バイオEXPO2004」にLEDを搭載した植物育成装置を出展しました。

当社展示ブースにはバイオ関連の研究者や企業のみならず、異業種の方々も多数で来場くださり、LEDを使った植物工場実現への期待と注目度の高さが伺えました。



する新規分野には、今のところ競合が見当たりません。

LEDは将来的に、ハロゲンランプはもちろん、キセノンランプにも取って代わるほどの輝度と光量を達成するでしょう。もちろん、ハロゲンランプの数百分の1という低消費電力も、CO<sub>2</sub>削減の観点からLEDへの代替を促す大きな要因となるはずで。そんな魅力あるLEDの応用製品を開発し、新しいマーケットをつくっていく当社は、将来にわたって強い競争力を発揮していけると確信しています。

## ❓ 企業の社会的責任に関する考えは？

## ❗ 世の中の役に立ってこそ企業の存在意義があると考えます。

最近では企業の社会的責任（CSR）が改めて問われていますが、冒頭でもご説明した通り、当社は“人のため、世のために貢献する”ことを目的に創業した企業です。だから、その精神をそのまま実践することが、社会的責任を果たすことになると考えています。よりよい新製品を開発し、幅広い分野で多くの方々に貢献していくのが目標です。コンプライアンス（法令遵守）の面でも、お客様や社会を欺くような行為は絶対にしません。

コーポレートガバナンス（企業統治）強化策として、2004年8月より本部制を導入し、各本部長に権限を委譲して責任を明確にしました。これにより、組織運営においてもパブリックカンパニーとしての体制が整い、よりいっそうの成長を期しております。

## 上七軒梅灯路祭にLED灯籠を提供



京都五花街の一つ、上京区の上七軒で、2004年3月20日から2日間、初めて開催された「上七軒梅灯路祭」にCCSはLED灯籠（とうろう）200個を無償提供しました。

これは音に合わせて光がろうそくのように揺らぐ灯籠で、京都の伝統文化と独創のライティング技術を融合させ、新しい祭りを支援しようという地元企業としての思いが込められています。

「ライティング・ソリューション」の提供を通じて、さらなる成長を目指します。



平成16年10月

代表取締役社長 米田 賢治

# どこにもマネのできない製品開発を推進中



工業用LED照明事業はCCSが他の追随を許さない技術力を誇る主力事業です。LEDの発光により発生した熱を放熱する技術、LED光を有効利用するための集光レンズ技術、最適な画像照明環境をつくりだすための照明装置を、独創のライティング技術を駆使して開発しています。特に近年では、従来のLEDより高出力なパワーLEDが市場に出現してきており、CCSではそのパワーLEDを搭載したスポット照明の開発に注力しています。また同時に、パワーLEDの搭載に伴う放熱性を考慮し、筐体設計技術の向上を図っています。

さらに、光ファイバーを利用した照明装置の開発を推進し、集光技術を駆使していっそうの高輝度照射を可能にしています。



## 新製品

### 直射光型リング照明LDR2シリーズ

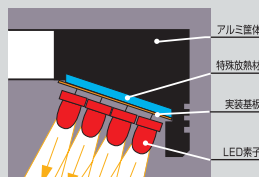
#### 長寿命のLED照明をより長寿命に ロングセラー商品がバージョンアップ!

LDR2シリーズは、CCS独自のフレキシブル基盤の採用により、LEDを傘状に高密度配置した直射光型リング照明。LED照明はLEDが発熱することによって輝度が低下したり、劣化が早まる場合がありますが、新開発のLDR2シリーズにはこれを防止する新・放熱構造を採用。基板とアルミ筐体の間に特殊放熱材を密着させることで、LEDから発生した熱を吸収し、アルミ筐体への熱伝導を飛躍的に高めることに成功しました。

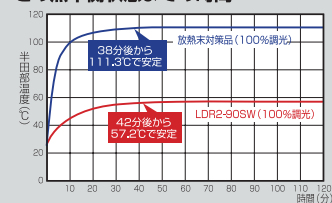
LEDの温度上昇を大幅に抑え、長期にわたり安心してお使いいただけるLED照明として生まれ変わりました。



#### LDR2シリーズの断面構造図 特許登録済



#### LDR2-90SW (白色) と放熱未対策品との熱平衡状態までの時間





**新製品**

## 高輝度スポット照明HLVシリーズ

**ハロゲン光源に置き換わる高輝度照明。  
独自の集光レンズで光量アップを実現。**

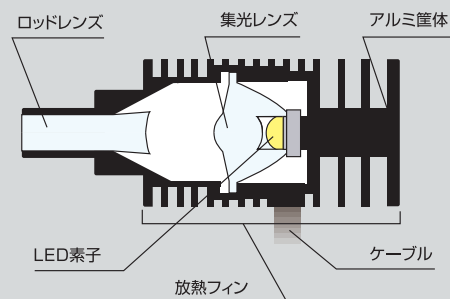
新開発のHLVシリーズは、ハロゲン光源を超越した高輝度スポット照明。従来のLEDスポット照明は、ハロゲン照明の約1/100程度の明るさでしたが、HLVシリーズではハロゲンの約40%にまで向上しました。

通常、ハロゲン照明は約5～6割の調光で使用されることが多く、また色フィルターをかけることから、光量はHLVシリーズと同等であり、しかもHLVシリーズの消費電力は1.4Wと省エネルギー。さらにLED照明はハロゲンランプのように突然ランプ切れを起こすこともないため、メンテナンスコストを大幅に削減することができます。

また、LED独自の分光特性を活かすため、検査対象物の特性に応じて発光色が選択可能であり、ハロゲン光源に比べてシャープな画像が得られます。ハロゲン照明に取って代わる高品質・高性能を実現した画期的なスポット照明です。



### HLV-24-3Wシリーズの断面構造図 特許出願済

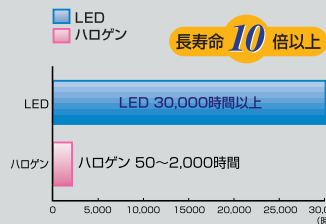


### 環境にもやさしい照明です

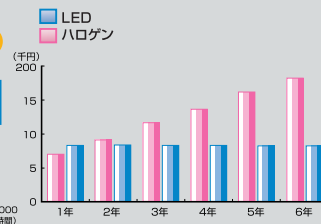
#### 二酸化炭素排出量比較

	LED照明	ハロゲン照明
二酸化炭素排出量	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 月間消費電力 1.4W (照明消費電力) × 720h (24時間 × 30日) = 1,008Wh</li> <li>● 年間消費電力 1,008Wh (月間消費電力) × 12 (月) = 12,096Wh</li> <li>● 二酸化炭素排出量数値: 1kWhにつき0.36kgCO<sub>2</sub> 12,096kWh × 0.36kgCO<sub>2</sub> = 4,4kgCO<sub>2</sub> (年間排出量)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 月間消費電力 50W (光源消費電力) × 720h (24時間 × 30日) = 36,000Wh</li> <li>● 年間消費電力 36,000Wh (月間消費電力) × 12 (月) = 432,000Wh</li> <li>● 二酸化炭素排出量数値: 1kWhにつき0.36kgCO<sub>2</sub> 432kWh × 0.36kgCO<sub>2</sub> = 155.5kgCO<sub>2</sub> (年間排出量)</li> </ul>
1年後の排出量	4.4kgCO <sub>2</sub>	155.5kgCO <sub>2</sub>
2年後の排出量	8.8kgCO <sub>2</sub>	311.0kgCO <sub>2</sub>
3年後の排出量	13.2kgCO <sub>2</sub>	466.5kgCO <sub>2</sub>

#### 寿命比較



#### トータルランニングコスト比較





## 技術セミナー

## 見たいものを浮び上がらせる技術、それがライティング技術

## 500円玉も照らし方を変えると…

形状も色も千差万別な検査対象物を、最適な画像で安定して撮るための光の当て方・制御方法には非常に高度なノウハウが要求されます。たとえば、500円玉一つとっても、どんな照明でどのように照らすかによって、見え方がさまざまに異なってきます。

たとえば真贋判別のために、裏面にある「500」の「ゼロ」の中には、さらに文字が隠されていることをご存知でしょうか。肉眼ではなかなか見えませんが、ライン型照明を使って一方向から照射すると、「500円」の文字が浮び上がってきます。このように見えないもの、見たいものを鮮明に浮び上がらせる技術が、CCSの誇るライティング技術なのです。

## ローアングル照明を使用

低い位置から照射



エッジ部分が光り、平面部分が影になります。

## 同軸型照明を使用

カメラと同じ方向から照射



平面部分が光り、エッジと局面部分が影になります。

ほぼ真横から照射



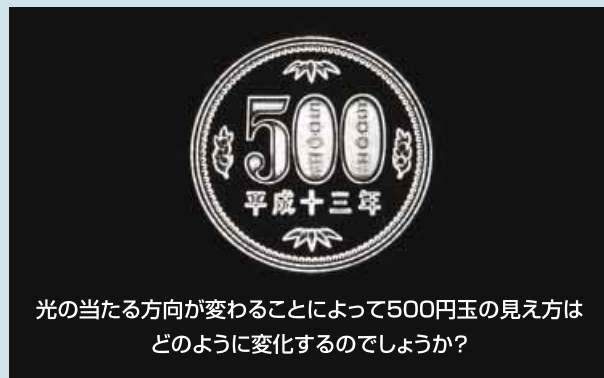
エッジ部分の反射が細くなり、よりくっきりとエッジが浮き出ます。

## ライン型照明を使用

一方向から照射

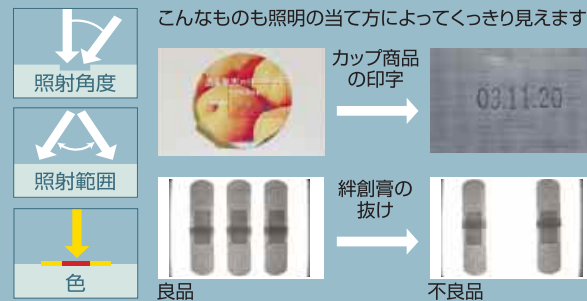


本来なら見えない、ゼロの中の500円の文字が浮き上がって見えます。



## なぜ、見たいものが見えるの？

見たい対象物の材質、形状、色などによって最適な光の当て方は違ってきます。光の照射範囲や照射角度、あるいは使用する発光色を変えることで、見たいものが鮮明に浮び上がってくるのです。したがって自由度の高い照明ほど、最適な照射を実現できます。点光源に近いLEDを集合させたLED照明は、ライティング設計に関わる自由度が高く、かつ発光色（波長）も選択できるため、対象物の見たい箇所に応じた照射が可能となります。



# 植物育成装置が完成! 2004年9月に発売



CCSでは、早くから大学の協力を得て、植物育成用LED照明機器の開発に取り組んできました。その成果として、2003年に植物育成装置の製品化にこぎつけ、大学での試験運用を経て、いよいよ2004年9月21日より販売を開始しました。

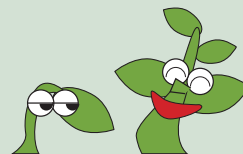
CCSの植物育成装置は、植物の生長を左右する4つの主要な環境条件「光・温度・湿度・CO<sub>2</sub>濃度」を精緻に制御できる、育成研究にお役立ていただくための装置です。光源にLEDを採用しており、従来の蛍光灯や高圧ナトリウムランプといった光源では困難な波長やパルス発光といった光質を自由にコントロールできます。さらに、1台のパソコンから複数の装置を集中管理できるなど、植物育成研究をしっかりサポートする仕様となっています。



## 技術セミナー

### なぜLEDで育つの?

緑色植物の代表的な光合成色素としてクロロフィルaが挙げられますが、植物が最もよく光を吸収する波長は660nm付近であり、次のピークが450nm付近であることが知られています。ちなみに、LEDのピーク波長は赤色が660nmで、青色が450nm。つまり、LEDのスペクトルは植物の吸収スペクトルと不思議なほどマッチしているわけで、これがLEDで植物がよく育つ理由です。植物はこれらの波長以外の光はほとんど吸収しませんので、必要な波長の光だけを照射できるLEDは、植物の生長に最も適した光源だといえます。



### 植物の育成を左右する環境条件



植物には光を吸収しやすい波長があり、その波長の光を照射することで育成が促進されます。

周波数を変えて光をパルス照射する(点滅させる)と光合成の効率が高まることが解明されています。

植物には、強い光で育つものや弱い光の方が育ちやすいものなどがあり、その植物に合った光量を照射することで育成が促進されます。

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当期 2004年7月31日現在	前期 2003年7月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	2,270,203	1,301,733
現金及び預金	586,343	189,637
受取手形及び売掛金	1,174,879	762,278
たな卸資産	448,424	309,073
繰延税金資産	53,300	31,503
その他	14,279	11,933
貸倒引当金	△7,023	△2,693
固定資産	652,222	179,203
1▶有形固定資産	555,818	71,194
建物及び構築物	259,405	27,771
工具器具備品	53,123	42,953
土地	239,733	-
その他	3,556	469
無形固定資産	36,907	44,009
投資その他の資産	60,497	63,999
繰延税金資産	34,625	23,633
その他	27,504	42,097
貸倒引当金	△1,632	△1,731
資産合計	2,923,426	1,480,937

(単位:千円)

科目	当期 2004年7月31日現在	前期 2003年7月31日現在
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	575,130	597,811
買掛金	165,625	101,346
短期借入金	-	70,000
1年以内償還予定転換社債	-	40,000
2▶1年以内返済予定長期借入金	65,032	166,324
未払法人税等	186,428	76,379
賞与引当金	42,553	34,289
未払金	98,383	72,822
その他	17,107	36,648
固定負債	414,926	93,364
2▶長期借入金	330,105	25,500
退職給付引当金	9,640	8,933
役員退職慰労引当金	74,751	58,931
繰延税金負債	429	-
負債合計	990,056	691,175
<b>(資本の部)</b>		
3▶資本金	435,450	111,950
3▶資本剰余金	550,750	92,770
利益剰余金	954,956	589,915
為替換算調整勘定	△7,787	△4,873
資本合計	1,933,369	789,761
負債・資本合計	2,923,426	1,480,937



財務セミナー

数字で見るCCS

Point 1▶有形固定資産

本社土地・建物の取得額397百万円を含め、総額で520百万円の設備投資を実施しました。

Point 2▶長期借入金

本社土地・建物の購入資金として、長期借入金400百万円を調達しました。

Point 3▶資本金・資本剰余金

新株引受権の行使、転換社債の転換および公募増資により、資本金が323百万円、資本剰余金が457百万円増加しました。

Point 4▶売上高

とくに欧州およびアジア地域の販売が好調だったことから、売上高は前期比40.4%の大幅増収となりました。

Point 5▶営業利益

売上原価率がやや改善されたことと販売費及び一般管理費の固定費が相対的に低減したことから、営業利益は前期比65.9%と大幅な増益となりました。

## 損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期 2003年8月1日から 2004年7月31日まで	前期 2002年8月1日から 2003年7月31日まで
4 ▶ 売上高	3,290,456	2,342,422
売上原価	1,203,435	867,212
売上総利益	2,087,021	1,475,210
販売費及び一般管理費	1,437,673	1,083,901
5 ▶ 営業利益	649,347	391,308
営業外収益	18,293	8,371
受取利息	363	985
為替差益	15,018	5,674
その他	2,910	1,712
営業外費用	38,764	6,993
支払利息	8,235	4,614
手形売却損	-	1,706
6 ▶ 新株発行費償却	7,339	-
7 ▶ 公開関連費用	22,583	-
その他	605	672
経常利益	628,876	392,686
特別利益	-	10,313
貸倒引当金戻入額	-	926
経営革新支援補助金	-	9,387
特別損失	-	1,209
固定資産除却損	-	1,209
税金等調整前当期純利益	628,876	401,790
法人税、住民税及び事業税	274,564	173,500
法人税等調整額	△33,118	△21,098
当期純利益	387,429	249,389

## 連結剰余金計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期 2003年8月1日から 2004年7月31日まで	前期 2002年8月1日から 2003年7月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	92,770	45,730
資本剰余金増加高		
増資による新株の発行	457,980	47,040
資本剰余金期末残高	550,750	92,770
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	589,915	343,875
利益剰余金増加高	387,429	249,389
当期純利益	387,429	249,389
利益剰余金減少高	22,388	3,350
配当金	10,388	3,350
役員賞与金	12,000	-
利益剰余金期末残高	954,956	589,915

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期 2003年8月1日から 2004年7月31日まで	前期 2002年8月1日から 2003年7月31日まで
8 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	39,672	29,572
9 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△505,682	△25,516
10 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	862,924	10,344
現金及び現金同等物に係る換算差額	647	△1,644
現金及び現金同等物の増加額	397,562	12,756
現金及び現金同等物の期首残高	155,163	142,407
現金及び現金同等物の期末残高	552,726	155,163

### Point 6 ▶ 新株発行費償却

繰延資産である新株発行費は、当期に全額費用計上しております。

### Point 7 ▶ 公開関連費用

平成16年6月のJASDAQ上場にあつた費用です。

### Point 8 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益は628百万円ありましたが、売上債権の増加が412百万円、たな卸資産の増加が139百万円、法人税等の支払額が164百万円ありましたので、当期に営業活動の結果得られた資金は39百万円となりました。

### Point 9 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー

賃借していた本社社屋等の取得により、515百万円の支出があり、当期に投資活動の結果支出した資金は505百万円となりました。

### Point 10 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金収入400百万円、新株引受権行使および有償一般募集による収入740百万円等がありましたが、長期借入金の返済支出196百万円があり、当期に財務活動の結果得られた資金は862百万円となりました。



# 個別財務諸表

## 貸借対照表 (要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年7月31日現在	前 期 2003年7月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流 動 資 産	2,224,935	1,252,125
固 定 資 産	705,977	245,722
有 形 固 定 資 産	553,362	68,677
無 形 固 定 資 産	32,840	38,473
投 資 そ の 他 の 資 産	119,775	138,572
資 産 合 計	2,930,913	1,497,848

## 損益計算書 (要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 2003年8月1日から 2004年7月31日まで	前 期 2002年8月1日から 2003年7月31日まで
売 上 高	3,169,728	2,256,876
売 上 原 価	1,194,670	852,038
売 上 総 利 益	1,975,058	1,404,838
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,332,922	1,024,066
営 業 利 益	642,135	380,771
営 業 外 収 益	1,333	2,670
営 業 外 費 用	45,938	7,003
経 常 利 益	597,531	376,438
特 別 利 益	34,024	10,313
特 別 損 失	-	1,209
税 引 前 当 期 純 利 益	631,555	385,542
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	272,000	173,500
法 人 税 等 調 整 額	△18,211	△17,624
当 期 純 利 益	377,767	229,667
前 期 繰 越 利 益	17,643	14,291
当 期 未 処 分 利 益	395,410	243,959

(単位:千円)

科 目	当 期 2004年7月31日現在	前 期 2003年7月31日現在
<b>(負債の部)</b>		
流 動 負 債	565,785	590,712
固 定 負 債	414,496	93,364
負 債 合 計	980,282	684,076
<b>(資本の部)</b>		
資 本 金	435,450	111,950
資 本 剰 余 金	550,750	92,770
利 益 剰 余 金	964,430	609,051
資 本 合 計	1,950,630	813,771
負 債 ・ 資 本 合 計	2,930,913	1,497,848

## 利益処分

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
当 期 未 処 分 利 益	395,410	243,959
任 意 積 立 金 取 崩 額	3,483	2,541
特別償却準備金取崩額	1,874	1,519
固定資産圧縮積立金取崩額	1,609	1,021
合 計	398,893	246,500
これを次のとおり処分いたします		
利 益 処 分 額	384,700	228,857
配当金	29,700	10,388
役員賞与金	15,000	12,000
任意積立金	340,000	206,468
次 期 繰 越 利 益	14,193	17,643

## 会社概要

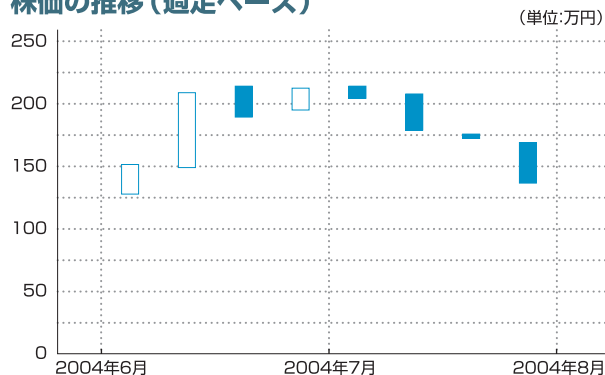
社 名：シーシーエス株式会社  
 本 社 所 在 地：〒602-8011  
 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地  
 TEL.075-415-8280(代表)  
 FAX.075-415-8281(代表)

設 立：1993年10月6日  
 資 本 金：435,450千円  
 従 業 員 数：139名(連結) 133名(単独)  
 取 引 銀 行：UFJ銀行・東京三菱銀行・みずほ銀行・京都銀行  
 事 業 内 容：画像処理用LED照明の開発、設計、製造、販売  
 光技術の応用研究  
 植物育成用LED照明の研究開発、設計、販売  
 事 業 所：東京営業所、上海駐在員事務所  
 関 連 会 社：CCS America Inc.

## 役員

代表取締役社長 米田 賢治 監 査 役 入江 英典  
 常務取締役 川端 伸一 監 査 役 河内 英昭  
 取 締 役 杉島 凱夫  
 取 締 役 和田 浩興  
 取 締 役 安封 昂雄

## 株価の推移(過足ベース)



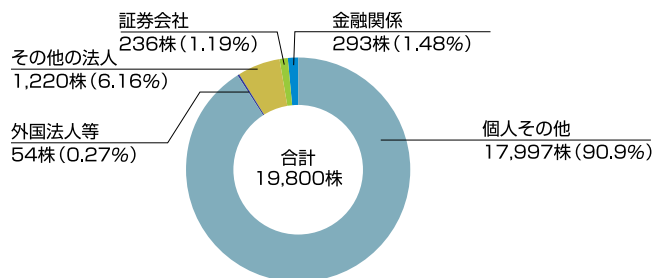
## 株式の状況

会社が発行する株式の総数：33,600株  
 発行済み株式数：19,800株  
 売 買 単 位：1株  
 株 主 数：3,860名

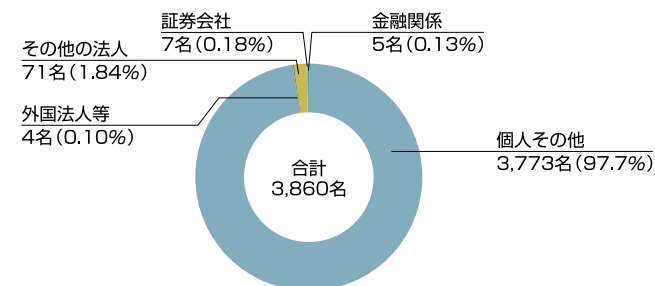
### 大株主

株主名	持株数	発行済み株式総数に対する所有株式総数
米田賢治	7,750株	39.1%
シーシーエス従業員持株会	719株	3.6%
川端伸一	400株	2.0%
杉島凱夫	330株	1.6%
米田美鈴	250株	1.2%
安封昂雄	250株	1.2%
和田浩興	250株	1.2%
ジャフコ・アール3号投資事業組合	230株	1.1%
ジャフコ・ジー6(エー)号投資事業組合	230株	1.1%
ジャフコ・ジー6(ビー)号投資事業組合	230株	1.1%
株式会社ジャフコ	230株	1.1%

### 持株数別株式分布の状況



### 所有者別の株主数



## 株主メモ

決算日 毎年7月31日  
定時株主総会 毎年10月  
名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
公告掲載新聞 日本経済新聞  
決算公告は当社ホームページに掲載します。  
株 主 確 定 日 毎年7月31日  
中間配当金の支払いを行うときは毎年1月31日  
上場証券取引所 JASDAQ  
証 券 コ ー ド 6669

## 免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。



## シーシーエス株式会社

〒602-8011  
京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地

### お問い合わせ先

E-mail koho@ccs-inc.co.jp  
TEL.075-415-8280 FAX.075-415-8281

## ホームページのご案内

ホームページにアクセスしていただきますと、当社の各種情報をご覧いただけます。

「投資家情報」のページには、IRニュース、財務ハイライト、株価情報をはじめ、各種開示資料を掲載しています。決算短信や説明会資料は「IR資料ライブラリー」に過去のものから最新のものまでを開示しております。「お問合わせ」のページもごさいますので、ご意見・ご質問等、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



トップページ  
投資家情報の入り口は  
こちらです。

投資家情報トップ画面  
株主の皆様と当社との  
コミュニケーション窓  
口です。



IR資料ライブラリー  
四半期データ、説明会資料  
などがご覧頂けます。

<http://www.ccs-inc.co.jp>